

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月20日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670104548号		
法人名	医療法人 敬天会		
事業所名	グループホーム いしき		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 伊敷台四丁目 34番50号 (電話) 099-229-1010		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年7月13日	評価確定日	平成21年8月10日

## 【情報提供票より】 (21年 6月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 8月 22日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤 15人 非常勤 4人 常勤換算	17.2人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	2階建ての	1～2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	300 円
敷金	有( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

## (4) 利用者の概要 (6月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性 2 名	女性 15 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名
要介護3	6 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 85 歳	最低 77 歳	最高 93 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	今給黎総合病院、伊敷台内科、くすき歯科クリニック、延寿堂クリニック
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市北部の住宅団地の中にあり、地域医療と地域福祉に貢献している法人が開設し、周囲に多種の大型店や外食産業、同系列の介護付老人ホーム、通所介護施設が隣接しているため、日常的に近隣の生活音や暮らしぶりに触れる機会に恵まれている。利便性の良い環境の中で職員は入居者と同じ目線で向き合い、生活のリズムを大切にしながらケアのあり方を探求している。職員の姿勢は入居者に常に笑顔で接する事を心がけており、家族等に安心感をもたらしている。都市型の利便性を活かし、地域資源の活用とホーム機能を啓発しながら、地域に根ざしたグループホーム運営の充実を目指している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	研修計画を作成し、外部研修は段階に応じた研修の参加や他事業所へ一日研修に交替で参加し、職員の技術や意識向上に努め改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員は評価の意義や目的をふまえて、自己評価に取り組んでいる。改善計画シートに具体的な改善目標を明記し、改善に取り組む評価を活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議は定期的開催されている。地区の防災組織の立上げと訓練、町内住民との関係作りやホームの啓発方法などの意見が出されている。ホームの安心・安全確保についての意見をサービスの向上に活かすように努めている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	相談窓口を明記したり、意見箱を設けている。来訪時や家族会の折には意見や要望を出しやすい雰囲気作り心がけている。ケアに対する要望に即対応し運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	夏祭りや自治会活動などの地域行事に参加したり、管理者が小学校に講演に出かけている。保育園児や学生のボランティア・自治会長・民生委員との交流など、地域とのつながりを大切にしながら関係づくりをしている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義と役割、慣れ親しんだ地域で暮らし続けるための理念を職員の意見を集約して作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝の申し送り時や日々の支援の中で確認し合い、共有に努め理念の実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りや自治会活動などの地域行事に参加したり、管理者が小学校に講演に出かけている。保育園児や学生のボランティア・自治会長・民生委員との交流など、地域とのつながりを大切にしながら関係づくりをしている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は評価の意義や目的をふまえて、自己評価に取り組んでいる。改善計画シートに具体的な改善目標を明記し、改善に取り組み評価を活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は定期的に行われている。地区の防災組織の起ち上げと訓練、町内住民との関係作りやホームの啓発方法などの意見が出されている。ホームの安心・安全確保についての意見をサービス向上に活かすように努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者に業務報告・入退居の状況報告・更新手続き等報告しながら関係作りを積極的に行っている。また介護相談員の受入れも行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月発行しているホーム便りや電話通信・家族の来訪時に、心身の状況や暮らしぶり・職員異動・行事予定等報告している。金銭管理は出納帳で管理し定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口を明記したり意見箱を設けている。来訪時や家族会の折には意見や要望を出しやすい雰囲気作りに心がけている。ケアに対する要望に即対応し、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者・家族等との馴染みの関係を重要視したケアを心がけている。やむを得ない異動の場合には、不安がないように取り組んでいる。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成している。外部研修は段階に応じた研修に参加して復命研修報告をしている。他ホームの一日研修に交替で参加し、職員の意識向上に努めている。資格取得チャレンジ者の支援をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加したり、他ホームへの一日研修や見学交流・情報交換など積極的に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望の折には本人・家族に面談し生活状態、思いや不安を聞いている。また、馴染めるように見学や十分な説明をして、信頼関係を築き不安なく入居できるように取り組んでいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活を共にしながら、食事の下ごしらえや歌・工作など、その人の特技により支えられたり、子供達からの手紙やメッセージに感激している入居者と思いを同じにしながら日々を支えあっている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向は口頭での表現や手をたたく・筆談などの行動や表情で把握している。職員間の情報交換を行い、本人の思いや意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の状態や生活歴・希望を入居時に把握し、家族等の思いや主治医の意見を聞き、カンファレンスで職員の気づきや意見を反映した本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的及び状態変化時の見直しをしている。個別記録にケアの実践結果や気づきを記録して、全体カンファレンスを行い、情報を共有して評価結果を介護計画の見直しに活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとっている。本人・家族等の状況や要望に応じて病院受診やリハビリ・美容院・クラス会参加など、必要な送迎支援を柔軟に行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等が希望しているかかりつけ医の受診が継続できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携体制を取っており、重度化や終末期に対して、家族・医師・看護師を交えて話し合い職員も情報を共有している。ホームが支援できる方向性を統一した指針が定められている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の意識向上を図るため尊厳に対する関わり方について勉強会をしている。利用者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけや対応に留意している。個人情報保護の職員の誓約書も取っており、取り扱いに配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムは決められているが、食事や散歩・レクリエーションなど、その人の生活リズムと身体状況を大切にしながら、本人の希望や状況に応じて柔軟に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	菜園から野菜などの収穫や食事の下ごしらえなど、できる事を共にしながら職員も一緒に食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は一応決めているが、一人ひとりの希望や体調に合わせて、毎日入浴できる体制である。入居者同士で入浴を楽しんでいる利用者もいる。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	シーツ替えやモップがけ・洗濯物干しやたたみ・折り紙・DVD・園芸など、本人の役割や趣味・特技を発揮できるように支援している。また、ドライブや菜園へ出かけるなど気晴らしの支援もしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には散歩や公園・ベランダでの外気浴、花の水かけ・リハビリ・受診など、外出の機会を工夫しながら、閉じこもらない支援に努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアを徹底し、プライバシーに配慮しながら見守りに努めている。また毎月の勉強会できめ細かく対応することなどを学び、入居者は自由な生活をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導のもと消火訓練・避難訓練を実施している。災害時の備蓄もされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録して、一人ひとりの状態に応じた摂取量の確保ができるように支援し、身体状況に合わせて食事形態を変えている。栄養士が栄養バランスに配慮して献立を作っている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、オゾンを使用してよどみや臭いがなく清潔で明るく、床暖房も設置されている。玄関やホールに季節の花が飾られて落ち着いた雰囲気である。ソファやタタミ部屋が設けられ、くつろげるスペースが確保されゆったりと過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・タンス・コタツ・椅子・仏壇・扇風機・茶道具・携帯電話など、使い慣れた物品が持ち込まれている。居室入口にわかりやすいのれんや表札が掲げられて、それぞれ個性のある居室作りになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。